

第4次大分市国際化推進計画 第3回策定委員会概要

項目	内容
開催日時	令和2年12月22日(火) 10:00~
会場	大分市役所8階 大会議室
出席者 (委員会)	下田委員長、疇谷副委員長、井本委員、太神委員、佐野委員、辛委員、ジェンバ委員、馬場委員、原委員、伊藤委員、永松委員、佐藤委員
次第	議事 1 第4次計画の素案について 2 計画の推進体制、パブリックコメントについて 3 今後のスケジュールについて 4 その他

【概要】

第3回策定委員会

開会

1. 委員長あいさつ

▽本日も皆さんの忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

議事1

第4次計画の素案について

議事2

計画の推進体制、パブリックコメントについて

議事3

今後のスケジュールについて

議事4

その他について

議事 1：第 4 次計画の素案について

■事務局より説明

- ・ 基本理念、施策、数値目標について
- ・ 第 4 次大分市国際化推進計画（素案）について

【推進テーマ：国際交流・国際協力】

施策 1 グローバル人材の育成

（数値目標：外国人と直接触れ合える事業に参加した子供の数：43,000 人（2024 年度））

施策 2 国内外から人々を惹きつける魅力あふれるまちづくり

（数値目標：外国人観光客宿泊者数：82,000 人（2024 年度））

施策 3 産業の活性化につながる国際ビジネスの推進

（数値目標：海外展開支援件数：200 件（2020～2024 年度の累積））

施策 4 持続可能な世界の実現のための国際協力・国際貢献の推進

（数値目標：国際関係団体や市民への国際協力事業サポート件数：35 件（2021～2024 年度期間の平均））

【推進テーマ：多文化共生】

施策 5 人権尊重を基調とした多文化理解の促進

（数値目標：国際化・多文化共生イベントへの参加者数：38,000 人（2020～2024 年度期間の平均））

施策 6 あらゆる国籍の人々が力を最大限発揮し共に支える地域づくり

（数値目標：外国籍を有する市民への生活オリエンテーション等を通じたサポート人数：200 人（2021～2024 年度期間の平均））

■質疑応答

委員	<p>「施策 6: あらゆる国籍の人々が力を最大限発揮し支える地域づくり」について、数値目標と施策の内容とが一致しないと思う。「海外の人が暮らしやすいようにする」ということであれば、どちらかというところ「施策 5: 人権尊重を基調とした多文化理解の促進」に当てはまるのではないかと。</p> <p>「施策 6」を実現するためには、例えば、外国人インフルエンサーのような形で、大分市民の外国人に情報発信をしてもらうとか、自分の出身国に今の大分の流行を発信するとかはどうか。</p> <p>日本人が市内の外国人に対して情報発信しても、それが外国人の興味関心に当たるものとなるかはわからないので、海外の考え方を持つ人が、ほかの海外の考え方を持つ人向けに情報発信するとよいのではないかと。</p> <p>そこで施策 6 の目標を「大分市に住む外国人が情報発信をした数」としてはどうか。施策 2 にも絡んできそうだが。</p>
----	--

事務局	<p>推進テーマ「多文化共生」の施策については、施策 5 を市民の多文化理解により多文化共生の土壌を作っていくこと、施策 6 を多様な主体がそれぞれ持てる力を発揮できる地域づくりをしていくため、それぞれが地域づくりに参加してもらうために、まずは参加の壁となるものをなくしていこう、という考え方で設定しているものである。</p>
委員	<p>「外国籍を有する市民へのサポート件数」というところが、施策と一致しないのではないかと。 サポートをすることは、施策 5 でいわれている、日本人や外国人がお互いに多文化理解をすることで達成できるのではないかと思うが。 外国人の力を発揮するのであれば、日本に住む外国人のサポートの件数という目標数値が一致するように見えない。</p>
委員	<p>「施策 6」に関しては、例えば大分市に住む外国人が、Facebook などを使って労働者のマッチングをしたりするようなことで、地域の継続的な発展につながるし、そうすると 2024 年までの目標は達成できると思う。</p>
委員	<p>推進テーマにある「外国にルーツを持つ人々も暮らしやすいまちづくり」というのを、施策 5 と 6 の 2 つに分けた基本施策がそれぞれある中で、施策 6 に関してはどちらかという、外国籍の方も暮らしやすい社会を作るために、外国籍の方から意見反映ができたり、外国の人たちが直接関与できるような、例えばボランティアのような仕組み作りであったり、何か外国籍の方からの発信を吸い上げたりする仕組みが当たると思う。 それに対して数値目標が、例えばゴミ出しの仕方を教えますというようなオリエンテーションのようなものであれば、矢印の向きが逆じゃないかというのが委員のご指摘だと思う。 この施策 6 の数値目標は、大目標の推進テーマには当てはまるのだと思うが、ブレイクダウンした施策 6 にはつながっていないと思うので、何らか、例えばこういうような場で、外国籍の市民から発信する、意見を反映するようなものを数値目標にした方が良くはないかと思った。</p>

委員	<p>施策 6 は、数値目標を大事にするのであれば、施策のタイトルを変えて、施策と目標が一致するようにした方がよい。基本施策をそのままにするのであれば、目標と数値目標を変える方がよいと思う。</p>
委員	<p>施策 6 については、確かにわかりにくいと思うが、事務局で議論した時に、どういう風な考え方をすればこの施策が成功するのかという部分をだいぶ考えた。</p> <p>推進テーマ多文化共生に関して、施策 5 については「個々の内面における多文化理解」ととらえて、施策 6 については「社会的な組み立てや社会の中のルールを皆さんで共有して、その中でそのルールが障壁になってうまく動けないということがないように、暮らしやすいまちをつくる」、というニュアンスで整理をするという説明であれば、新たに市に来られた方への生活オリエンテーションも必要だということで数値目標に設定したところである。</p> <p>事務局で議論する中でだいぶ苦労したところではあるが、施策 6 は、大分市や日本が持っているルールを皆さんが抵抗なく受け入れられる、それが共通のルールとして、外国にルーツを持つ方々にも障壁とならないように、という形にまとめられればということでこのような表現としているところである。</p>
委員	<p>社会的な組み立てや社会の中のルールを障壁にならないように理解する、ということであれば、施策 5 の多文化理解の所にもかかってくるのではないかと思うが、「社会的なルールを守るように」というところを取り上げるのであれば、施策 6 のタイトルを変えたほうが良いのでは。</p> <p>「あらゆる国籍の人々が力を発揮できる」と「社会的なルールに従う」というのは、見え方としてずれていると思う。</p>
副委員長	<p>施策 6 の「あらゆる国籍の人々が最大限力を発揮し共に支える地域づくり」というのは、とても重い言葉だと思う。</p> <p>外国の人を受け入れるために、地域が変わらなければならなくて、「これだけ環境をセットアップしているから頑張つて」ではなくて、「いろいろな国籍の方が来たときに、言語や習慣や、いろいろなことが不自由無い中で生きていくためにはどうすればいいのか」というテーマに読める。</p>

副委員長	<p>だから、「外国籍を有する市民へサポートをしている」という目標はとても大事なことだと思う。例えば、様々な機関などが言語フリーになるとか、それぞれができる言語で情報発信するとか、その辺ではないかと思う。</p>
委員	<p>留学生をサポートしているところでは、生活のサポートなのか、活躍のサポートなのか、という切り分け方をしているが、ここの施策 6 の数値目標「生活オリエンテーション等の生活のサポート」と記載されているのは、「生活面だけのサポート」と受け止められそう。そうではなくて、「活躍すること」も相談にのっている、その件数と受け止められる表現であったり、両方のサポートが計れる数値目標であればよいのではないか。</p>
委員	<p>皆さんの考えを聴く中で、ポイントは、数値目標が「サポートをする人数」ということであれば、施策の中で、あらゆる国籍の人々が力を「最大限発揮して」というところが皆さん引っかかっているのではないかと思う。</p> <p>「サポート人数」を目標にするのであれば、例えば「あらゆる国籍の人々と一緒になって支える地域づくり」といった表現になると、方向性もわかりやすくなるのではないか。</p>
委員長	<p>これについてはもう少し整理が必要で、施策 5 が個人の内面における理解の問題、そして、多文化理解に留まるのか、それをもう一步踏み出して、社会活動としてどう地域づくりを進めていくかというところで、一步踏み出す政策として施策 6 にされている、そういった考えの中、数値目標としてなかなか良いのが出てこないという中でこのような形になっていると理解している。</p> <p>つまり、委員の指摘のように、この数値目標「サポート人数平均 200 人」が重要なのではなくて、この「施策 6 を実施したい」というのが事務局の考えだと思う。そういう理解でよいか。</p>
事務局	<p>そういう考え方です。</p>
委員長	<p>そうであれば、この施策 6 の数値目標が繋がっていないという指摘なので、目標を変更することが必要だと思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>サポートをすることは重要だが、「何人サポートした」という目標よりは、先ほどあった外国籍の方による SNS による発信や、異文化に関わる情報発信をどれくらいしたのか、発信しフォローされているのか、等についてもよいが、この施策 6 を推進する中で何が動いていくか、つまり、数値目標があつてその数値目標は、達成されればその施策が達成できたとなるのか、施策を動かす中でどういう数値が高まっていくのだろうかという、そういう指標を見つけ出した方がよいのではないか。</p> <p>つまり、そういったところが動き出したら、ユニバーサルデザインではないが、いろいろな取組に対してどれくらいの多文化の人々が協働してその事業が推進されていくか、といったところをピックアップして数えるというのもあると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>推進テーマ：国際交流・国際協力について、数値目標が基本的に大分市総合計画の目標値を揃えられているようだが、そうしなければならないということなのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>揃えなければならないということではないが、政策の整合性や、施策の実現を目指すときの目標として方向性があつておりわかりやすいため、数値目標としているものである。</p>
<p>委員</p>	<p>施策 2 の「国内外から人々を惹きつける魅力あふれるまちづくり」について、国内外に大分市の良さを発信して、さらに国内外の人と交わることでまちの活性化につながっていく、という考え方で見たときに、ひいては外国人観光客の宿泊者数につながる、という考え方で数値目標を設定しているかと思うが、今回の計画をコロナ禍の中といったところでも見ると、この総合計画を策定した時にはコロナの影響は全く考えられていなかったわけで、そうした時に、この総合計画の数値目標と合わせるといふのはどうなのかという思いがある。</p> <p>この 4 次計画は、その上位計画の総合計画にある最終目標達成のための詳細計画といえるため、そうであるならば、この最終目標達成のための、ある程度道筋的な目標値を設定してもいいのではないか。</p>

<p>委員</p>	<p>また、施策 2 の将来像については「本市の魅力を国内外に発信し、まちの活性化に繋げる」としているが、情報を国内外に発信するということが大事なのであって、大分市に住む外国にルーツを持つ方々から情報を発信してもらうといった話もあったが、そういうところを一つ目標に入れてもいいのではないかと思う。目標を複数にしてもよいのではないかと思う。そうすることで、多文化共生の所にもつながっていくことになるのではないかと思う。</p> <p>そこで、何らかの「発信数」というようなところが一つの目標になってもいいのではないかと思う。</p> <p>また、施策 4「持続可能な世界のための国際協力・国際貢献の推進」については、将来像について、国際協力・国際貢献活動に取り組むと、当然持続可能な世界平和につながり、ひいては地域の発展につながる、としているが、文章がかなり一足飛びに見えるので、実際のプロセスとしては、国際協力への取組が、まず本市の魅力の発信というところに繋がり、さらにそこからさまざまところで発展につながっていくことで、ひいては地域の発展につながっていく、というところになるのかなと思うので、そういった表記をするのがいいと思う。</p> <p>そういったプロセスを見せることで、この計画がわかりやすいものになるのではないかと思う。</p> <p>また、今回の計画は、新型コロナウイルス感染症については少し考えてやらなければならないということがあるという中、2024 年までの目標として現時点ではまだ完全な収束が見えていない中で、新型コロナウイルスを見越した内容というのをある程度この計画の中に入れた方がいいのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>計画策定における新型コロナウイルスの考え方については、大分市の他の計画でも同じ考え方であるが、大分市の基本姿勢としては、新型コロナウイルスによって世の中の在り方がまったく変わってしまい、これまでの世の中とは全く変わってしまうという前提ではなくて、いずれコロナを制圧して元の世界に戻るという姿勢を持ちながら、様々な政策に取り組んでいく、というスタンスである。</p> <p>大きな計画のなかでは、コロナというのは一時的な非常事態だというとらえ方で、将来的な大きな方針を変えるということはない、という考え方で各種計画を策定している。</p>

委員	<p>4、5年といった短い期間での計画となると、影響はどうしても避けられないのだが、計画の整合性上、計画そのものを全く別の方向に持っていくということにはできないという制約があるので、各計画には「特別な要素」として新型コロナウイルスに関することを盛り込んでいく、ということにしている。</p> <p>その中で、本計画においてどのように対応していくかというのは非常に難しいが、新型コロナウイルスの影響が今後どのように出てくるのかというのが、現時点では全く見えないので、数値目標に盛り込んでいくというのは実情として難しいと考える。現状として、大分市の各種計画の中でも、新型コロナウイルス影響を数値として反映させるといったことは行っていないところである。</p>
委員	<p>新型コロナウイルスの影響を数値目標に反映することは難しいが、むしろそういった状況にあるということと、新型コロナウイルスによってICT化が進むといった良い影響もあったという中で、例えば国際交流などにおいてもICT化のようなことも考え、負の面だけでない、というところも落とし込んでいければと思う。</p>
副委員長	<p>新型コロナウイルス感染拡大後のことを考えたときに、ICTのことについてもそうだが、国でデジタル庁の創設が検討されていること自体、既に環境が変わっていくということだと思う。</p> <p>特にある一定の年齢から若い世代については、おそらく新型コロナウイルス感染拡大後の生活習慣は変わってしまっているため、その結果発達した技術などについてももう少し盛り込んで、未来志向の計画にした方がいいのではないかという意見だと思う。</p>
委員長	<p>新型コロナウイルス感染拡大後については、これまでの生活が元には戻らないという考えはそうだと思う。</p> <p>ただ、この考え方で計画を作っていくとなると、大幅な書き換えとなり、総合計画との整合性が取れなくなるので、この考えの中で今後4年の計画をどう進めていくかということにとどめておくのが良いと思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>コロナ禍において先が見えない中、この方向性のもとで数値目標を設定して、努力をしていったが、最終的に達成できなかったと整理することも、この特別な状況においては悪くはないのではないかとも思う。努力目標として推進していくという方向性で。</p> <p>もちろん、実際に目標を達成しようとしたときに、サイバー空間上で様々な活動や連携を実施するということが交流の実績数値ともなるので、ICT技術も含めて、これまでになかった手段も使って目標の実現に向けていくということが必要だと思う。現地に行ったり来たりする必要がないので、交流の人数としてはかなり多くの数の人数が達成していくというようになることもあるかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>施策2の数値目標として、2024年度での外国人観光客数を設定しているが、コロナ禍において来年や再来年はどうするのかといったところが見えてこないのかなと思う。計画の最終年だけに目標を置いておけばいいのかというところじゃないと思うので、確かに最終的にそこを目指していくというのはそうなのだが、できないときにどういった対応をとるのかといったところを、何か示すことができればいいのではないかと思う。</p> <p>県の委託事業で、現在諸外国との行き来ができない中で、留学生により大分の魅力をSNSで発信する事業をしている。すでに多くの留学生の母国に向けて魅力を発信できているが、そういう風に、観光客数を数値目標とできない年は、できない中でどういうことをするかということも目標数値に取り入れていければいいのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>総合計画との関係としては、国際化推進計画のなかに、総合計画及び大分市観光戦略プランでも示されている外国人観光客宿泊数などといったものもある中、新型コロナウイルスの影響が総合計画の中には記載されていないからと言って、国際化推進計画の中ではコロナ禍を考慮してこの外国人観光客宿泊者数の目標数値を下げる、ということもできない。</p> <p>観光戦略プランとしても年次で成果を追っていく中で、年次の活動を行った中で結果を踏まえ、PDCAサイクルを進めていく、といったスタンスをとっている。</p>

委員	<p>施策 3 として挙げられている国際ビジネスの推進の数値目標「海外展開支援件数」についても、確かにコロナの影響はある中、同じように進めているところである。</p> <p>国際化推進計画の素案にも、新型コロナウイルスの状況に関しても記載されているところでもあるので、コロナ禍の影響を全く取り入れていないということも言えないのではないかと思うし、市としても方向性の価値観みたいなものを変えない方向で進めていこう、というのが今の位置付けとなっている、というところである。</p>
委員	<p>本計画と並行して策定しているものでは、計画の中において新型コロナウイルスに対する考え方として、通常の実組にプラスして特別な実組として、コロナ対策について別の章で作っている。コロナ禍の影響下にあってはこれまでのことができないので、その部分における活動について別に記載している。新型コロナウイルスの影響がどのくらいになるのかというのが見えないのと、その影響が全体にどう影響を与えていくのかというのが見えないので、計画としては全体に反映させるのは難しいということで、別途記載をしているところである。</p> <p>国際化推進計画の中でも、「通常の部分と異なる実組み」という形で整理させていただけたらと思う。</p>
委員	<p>施策 1 のグローバル人材の育成について、外国人と直接触れ合うという目標と、外国人と直接触れ合える事業に参加した子供という数値目標としているが、コロナ禍も踏まえ業務の推進に当たって不確定要素が非常に多い中、「直接」とすると数値目標の達成が危ぶまれるのかなと思われる。</p> <p>そこで、目標や数値目標についても「外国人とコミュニケーションをとる」という形にすると、オンライン交流についても推進の対象となってくるかと思う。</p>
委員	<p>グローバル人材の育成というところでは、実際にグローバル人材を育成するためには、短時間外国人と触れ合っただけではなかなか難しいという中で、そのきっかけを作るところになるかと思うが、大分市の子どもの数と比較してこの数値目標はかなりの割合になっているとも思う。</p>

委員	<p>ここの数値目標は見直した方がよいのではないかと思いますし、先ほどから出ているオンラインによる交流といったところも当てはまるようになると、グローバル人材の育成という観点からもつながっていくのではないかと思います。</p>
委員	<p>大分市の学校教育の分野では、ALTがネイティブな英語を補助するというだけではなく、国際理解教育を踏まえて実施しているところであり、教育委員会としては、このALTの活動は人材の育成という観点からは合っている。しかし、現在の小中学生の数は約38,000人であり、その中で事務局がこの数値目標についてはどう考えるかというところだと思う。</p>
委員	<p>施策1の目標数値については、コロナ禍がいつまで続くかわからない中、バーチャル上での活動も踏まえて考えた方がよいと思う。</p> <p>施策2の数値目標についても、大分市に宿泊に来られなくても、外国人がバーチャル上で大分市の文化などに触れる、ということも踏まえれば良いのではないかと思います。</p> <p>ただ、前計画の数値目標とその達成状況を踏まえて、第3次計画で達成していない部分については第4次計画の目標として取り入れてほしいという思いがあり、そのうえで第4次計画に目標を持ち越すときには、数値についてはきちんと考えた方がいい。</p>
委員長	<p>各委員のご意見は尊重したいと思うが、この各施策の目標数値は総合計画の数値であり、個別計画に総合計画と違う数値を変更して入れるわけにはいかない中で、私の提案としては、本計画では、総合計画と合わない部分については総合計画の数値を使わずに、別の数値を目標とすることで総合計画と同じ方向を向いて動いていこうとするようにする。</p> <p>例えば、施策1のグローバル人材の育成であれば、バーチャル空間も活用して、特に中学生までをターゲットとした、外国人と触れ合うことだけに特化したわけではなく様々なアプローチによる人材育成、ということにするとか、そういった視点による数値目標でもいいのかと思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>この考え方としては施策 2 以下も同じで、例えば施策 2 では、外国人観光客の宿泊者数は難しいというのであれば、それに代わる魅力として SNS を活用したこととか、あるいは姉妹都市をはじめとした相手方との定期的な交流を、生徒、学生たちや事業者などもそれぞれがやれるような仕組みや実績みたいなことを順次入れていってはどうか。それをビジネス交流などにも広げていく、といった方向性にも持っていけるのではないかと思う。</p> <p>そうしたものを、各施策に順次入れていったらいいのではないかと思う。</p> <p>そういった中で、目標数値をどうやったら取り込んでいけるのかといった方法論についてもなかなか難しいとは思いう。</p> <p>以上について、この策定委員会の時間内で考えていくことは難しいと思う。また、それぞれの委員にも考えているとことがあると思うので、委員会後にご意見シートを提出していただきたい。12月28日(月)までを意見調整期間とするので、各委員は検討してください。</p> <p>それを踏まえて整理、精査をしていくので、委員長、副委員長と事務局にご一任いただければ、各委員にはその結果を報告していくということにしたいが、よろしいですか。</p> <p>(一同、異議なし。)</p> <p>素案の内容自体や、3次計画の総括、コロナ禍も踏まえそれが第4次計画の素案にどのように反映されているかというチェックなども併せて行いたいと思うので、その辺も踏まえて整理をしていきたいので、各委員はよろしく願います。</p>
<p>委員長</p>	<p>基本理念について、事務局案として「①世界にチャレンジする グローバル都市“OITA”」「②みんなのふるさと グローバル都市“OITA”」の二案が提示されているが、各委員のご意見を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>①「世界にチャレンジする」とすると、これまでも世界にチャレンジし続けているというところが見えないので、「チャレンジし続ける」「挑戦し続ける」とした方が、もっとグローバルな感じを抱かせるので良いと思うが、②の方が多文化共生の面で考えると良いのではないかと思う。</p>

委員	<p>①の方が良いと思うが、今までもそうだったし今でもやっているという中では、「し続ける」という表現にした方がよいと思う。</p> <p>②の「ふるさと」と言ってしまうと、「大分で育って出ていった後の故郷」という印象が強くて、いまはまだ多文化共生や産業の活性化へのチャレンジをしていこうとしているところで、「ふるさと」というのは第5次、6次計画か、もうちょっと後になってからでもいいのではないかと思った。</p>
委員	<p>①の方がしっくりくると思う。また、「チャレンジし続ける」の方が違和感なく入ってくる感じがするし、②としたときに、これから4年間の計画の中で、4年後に「ふるさと」になっているかとなると、違和感があるところでもある。また、「みんなの」というのも若干抽象的であるかと思う。</p>
委員長	<p>イメージでは、①は能動的、②は若干受動的な感じはする。そうすると、多文化共生社会の実現は当然めざすが、そのためには世界にいつも広がっていなければならないということでもあり、「絶えず打って出る」という意味で、「世界にチャレンジし続ける」「不断のチャレンジ」といった形の文言の方が、市政としてアクティブでよいと思う。</p> <p>多文化共生に関してもいろいろと課題がある中で、大分市としてもいろいろなことにチャレンジしていかなければならない、という意義づけにもなると思う。</p> <p>ということで、「世界にチャレンジし続ける グローバル都市“OITA”」という形で本委員会としてとりまとめるが、ご意見等あれば12月28日までに提出としている「ご意見シート」にてご提案いただければと思う。</p>

議事2：計画の推進体制、パブリックコメントについて

■事務局より説明

- ・計画の推進体制について
- ・パブリックコメントについて

■質疑応答

	特になし
--	------

議事3

今後のスケジュールについて

■事務局より説明

- 令和3年1月18日～2月19日 パブリックコメント実施
- 令和3年 3月 第4次計画決定・市長へ報告
- 大分市議会令和3年第1回定例会総務常任委員会 報告

■質疑応答

	特になし
--	------

議事4

その他

■全体を通して

	特になし
委員長	委員の皆様におかれましては、本日はご議論いただきありがとうございました。 今後ともよろしく申し上げます。

閉 会